

病気に関するミニ講座

アトピー性皮膚炎って どんな病気？治療は？

かゆみのある湿疹が、慢性的に良くなったり悪くなったりを繰り返す病気です。慢性的とは1歳未満であれば2ヶ月以上、1歳以上であれば6ヶ月以上継続している状態を指します。かゆみのある湿疹が左右対称に現れるのもアトピー性皮膚炎の特徴で、年齢によっても症状が現れやすい部位は変わります。アトピー性皮膚炎の治療は、①薬物療法 ②スキンケア ③悪化要因の対策の三本柱です。

1 薬物療法

ステロイド外用薬が多く使用されます。安全性が高く、湿疹・かゆみを引き起こす皮膚の炎症を抑えるのに効果的です。ステロイドには外用薬と内服薬があり、薬による副作用も異なります。外用薬を必要量、決められた塗り方で使用していれば、まず副作用の心配はありません。

2 スキンケア

スキンケアとは、皮膚を洗って皮膚についたアレルギー・汗・皮膚にかゆみを与える黄色ブドウ球菌などの刺激物を落として清潔にすることです。また、黄色ブドウ球菌は皮膚についてから時間が経つにつれて増加するため、皮膚炎が悪化してしまいます。1日に2回、3回のスキンケアが推奨されています。洗い方としてはなるべく防腐剤、着色料や香料の入っていない石けんを使用し、よく泡立ててもむように洗いましょう。しわのあるところは伸ばして洗い、よくすすぎましょう。石



けんが残っていると皮膚炎が悪化することがあります。拭くときはこすらないように軽く皮膚を押さえる様にして水気を取ります。その後は必ずステロイド外用薬や保湿剤を塗りましょう。

3 悪化要因の対策

悪化要因には、ダニ、ハウスダスト、カビ、ペットなどがあります。ダニ対策としては、毎日の掃除が大切です。最もダニが多いのが布団で、天日干しなどで乾燥させ、取り込んだら布団に掃除機をかけ、表面のダニや死骸を取り除きましょう。カビ対策としては、湿気が多いお風呂、台所、トイレを中心に換気を行い、湿気がこもらないようにしましょう。ペット対策としては、犬、猫、ハムスターなど毛のあるペットや鳥などはアレルギーになりますので、なるべく飼うのは避けましょう。また、家族の喫煙も悪化要因です。禁煙をおすすめします。

医師と相談しながら適切な治療を行いましょう。

挿絵 Dr.横道



浅田 一志
(あさだ かずし)

小児科

せいれい通信

2020 June No.208



脳神経外科

主な疾患

脳の病気の初診医として

症状や心配のある方は初めての相談先として、問診・診察をさせていただきます。

その上で必要に応じて検査をさせていただきます。

●検査：CT・MRI・脳波・長谷川式認知症スケールなど
適切な診断・治療が出来るよう診療に努めております。



部長 安藤 直人

地域を支える連携医として

急性期病院として、クリニック・診療所様からご紹介された方の治療や回復期リハビリテーション病院様へご紹介をさせていただいております。地域との連携を積極的に行い、より良い医療提供を目指しております。



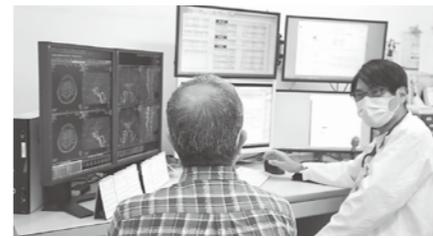
CT

GE社製
Revolution Maxima
(64列128スライス)

2020年5月7日「新機種導入」

主な対象疾患

- 脳腫瘍
- 脳卒中
- 頭部外傷
- 頭痛症
- 認知症
- 脊椎、脊髄疾患全般 など



週間担当表		月	火	水	木	金	土
外来担当日	脳神経外科	午前 安藤 宮原	安藤	安藤	安藤	安藤	—
	脳神経内科	午前 午後	—	塚本	—	—	—
	ずつう外来	午後	安藤	—	—	安藤	—
	てんかん外来 (予約制)	午後	—	—	—	山本 (6/26)	—

●脳神経外科…午前7:30~11:30
●脳神経内科…午前7:30~11:30 / 午後13:00~16:00
●ずつう外来…午後13:00~16:00 ●てんかん外来…午後13:00~16:00

お問い合わせは下記に遠慮なくご連絡ください。

==== 特に記載がない限り、本紙は2020年5月末時点の内容です。====



TEL.055-952-1000
FAX.055-952-1001
〒410-8555 沼津市本字松下七反田902-6
http://www.seirei.or.jp/numazu-hp/



当法人は、7月に創立70周年を迎えます。
本誌に、感謝メッセージを連載で掲載させていただきます。



シリーズ③ (全4回)

法人創立 70周年に寄せて

一般財団法人 芙蓉協会 在宅サービス事業

聖隷訪問看護ステーション千本 兼
看護小規模多機能型居宅介護事業所せいれい緑町

所長 櫻井 悦子

法人創立70周年!!皆様に支えられた重みを感じます。
聖隷訪問看護ステーション千本は25年目を迎えました。看護師3人から始めましたが、今では在宅サービス事業全体で35名になりました。訪問看護から始まり、介護支援、看護小規模多機能事業所など拡大していくことができました。これはひとえに地域の皆様、病院・診療所の先生方、ケアマネジャーや地域包括支援センターの皆様、行政の皆様、その他上げたらきりがないくらいの皆様のおかげと感謝いたします。

小児、難病、がん、加齢、それぞれ病気や家庭環境の違う利用者宅へ訪問看護師は伺います。その一例一例が私たちの力になり、ステーションの歴史になるのだと思います。次の世代に引き継いでいかなければならない“看護”“介護”“リハビリ”があります。今後も地域に貢献できるよう研鑽してまいります。

「70周年と私」Memorable Episode

“ありがとう”95歳Aさんの言葉です。それを聞きながら、黙って足をさする介護者のお嫁さん。陽だまりにいるような心地いい空気が部屋に漂います。少し前までは足が痛いというAさんに“毎日さすってやって、私も手が痛くてしょうがない”吐き捨てるように言うお嫁さんに“そうだね。疲れるよね”と言うしかありませんでした。変わっていったのはAさんのありがとうの言葉が聞かれるようになってからです。今までの嫁・姑関係は氷が解けるようにゆっくり変わっていきました。感謝の言葉がこれほど人を変えていくことを在宅の現場で体感しました。その二週間後家族に看取られながらAさんはなくなりました。お嫁さん、家族そして私たち看護師にもいろいろなものをのこして。